

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

(実施期間：平成 27～32 年度)

実施機関：長崎大学（総括責任者：河野 茂）

取組の概要

1. 実績をあげてきた従来の取組に、さらに多様な視点と発想を取り入れ、女性研究者の研究力向上・上位職登用を実現する。特に今後急増する介護支援ニーズへの対応の視点から新規ライフイベントサポートプログラムを重点的かつ先進的に実施する。
2. 学長直下に司令塔機能を担う「推進会議」を置き、「ダイバーシティ推進センター」組織を再構築する。センターに「介護支援専門部会」を置きプログラム全体の実施主体となるとともに、複数の介護専門家（介護コンシェルジュ）を配置し、教職員へのきめ細かな個別対応を行う。
3. 地域との連携体制のもと、地域の介護者を支えるサポーター（地域住民や学生）の育成に取り組む。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長の強いリーダーシップの下、地域社会と連携し研究と介護の両立を目指す「長崎モデル」を提唱するとともに、研究者の働き方の見直しにも繋げる意欲的な取組であり評価できる。女性研究者の採用、研究力強化、女性リーダー育成の取組も概ね順調に進められており評価できる。一方、女性研究者の上位職（学長、副学長、理事相当、教授）への登用については、所期の目標が未達であり、成果が十分に挙がっていない。今後どのように改善を図るのか具体的な方策を明確にした上で、新たな展開を図ることを期待する。

- **目標達成度**：女性研究者の採用比率、在職比率の数値目標は達成しており評価できる。しかしながら、女性研究者の上位職（学長、副学長、理事相当、教授）への登用については、所期の目標が未達であり、実績値が年々減少傾向にあることが懸念される。具体的な改善策を策定し、早期に目標を達成することが望まれる。
- **取組**：地域社会を巻き込んだ研究と介護の両立（「長崎モデル」）、働き方の見直し（「働き方見直しプログラム」）に係る特徴的な取組を展開している。「長崎モデル」については、女性研究者のための両立支援にとどまらず、地域社会、自治体、学生を巻き込み、地域連携、ボランティア活動の推進に繋げており評価できる。「働き方見直しプログラム」については、主に医学・薬学系部局での実施に留まっているが、今後の全学的な横展開を期待する。
- **取組の成果**：「介護コンシェルジュ」による個別対応、研究と介護の「両立事例集」の発刊等の取組により介護離職を防止した事例が3件、また、学内保育園の新設、研究支援員の配置等の研究環境整備の取組により、女性医師（医学系研究者）の産前・産後休業や育児休業後の復

職率を100%に維持していることは評価できる。

- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、学長を議長とする「ダイバーシティ研究環境推進会議」の直下に設置された「ダイバーシティ推進センター」内に「介護支援専門委員会」と「働き方見直し推進委員会」を創設し、研究と介護の両立支援、働き方の見直しに特化した実施体制を構築したことは評価できる。
- **今後の進め方**：事業実施費の縮小はあるものの、今後も体系的取組の実施が期待できる。女性研究者の上位職（学長、副学長、理事相当、教授）への登用については、未だ課題が多く、減少傾向にある女性上位職を今後どのように増加させるのか早期に具体的な改善策を策定することが望まれる。